



PRESS RELEASE

令和 8 年 7 月 31 日

"坂も、砂利も、段差もある。だから走る価値がある" — 岡山大学が地図・許認可・保管・宿泊まで一体支援、吉備中央町に 自動配送ロボットの実証フィールドを開設 —

◆発表のポイント

- ・岡山県吉備中央町を自動配送ロボット・小型モビリティの走行実証フィールドとして整備し、参加企業・研究機関の募集を開始しました。実施期間は2026年9月1日～11月20日です。
- ・ロボット走行用の点群地図、GNSS 自己位置マップと機器貸出を提供するほか、走行許可の警察手続きは岡山大学が代行します。ロボット保管拠点・屋外作業場・宿泊補助も用意しています。

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座（整形外科）の長谷井嬢教授（特任）は、同学術研究院環境生命自然科学学域と連携し、岡山県吉備中央町を自動配送ロボット・小型モビリティの走行実証フィールドとして整備し、参加企業・研究機関の募集を開始しました。

吉備中央町は、2022 年に全国で初めて「デジタル田園健康特区」※¹に指定された中山間の町です。高齢化が進み、買い物や医療へのアクセスが現実の課題となっている一方、計画都市・吉備高原都市を中心に歩道が広く整備されており、自動配送が「あれば便利」ではなく「なければ困る」地域での走行検証が可能です。坂、砂利、段差、通信インフラの弱さといった、都市部の整備されたフィールドでは出会えない条件があることも、社会実装に向けた検証の場としての大きな特徴です。

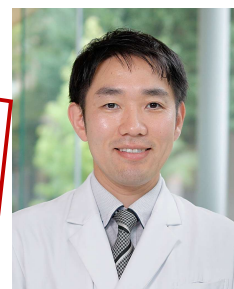
参加企業には、3D 点群地図や GNSS 自己位置マップの提供、警察手続きの代行、保管拠点・宿泊補助など、走行検証に集中できる環境を用意しています。実施期間は2026年9月1日（火）～11月20日（金）で、期間内の日程・ルートは柔軟に調整可能です。詳細・エントリーは特設サイトをご覧ください。

<https://kibichuo-robot-delivery.vercel.app/>

◆研究者からのひとこと

私たちは2023年に岡山大学病院のデジタルツイン※²を構築・公開して以来、工学部の研究者とも連携しながら、院内をロボットが走行するための研究開発を進めてきました。しかしその過程で強く感じてきたのは、病院の中だけを自動化しても、暮らしの課題は解決しないということです。高齢化が進む中山間地域では、薬や食料品を届けること、そして病院まで移動すること。「モノ」と「人」の移動そのものが日々のハードルになってきています。院内の搬送から、玄関の外へ、バス停へ、そして家の前へ。屋内と屋外を分け隔てなく、人とモノが自動で移動できる社会をつくるのが、私たちの目指す姿です。

吉備中央町には、坂も砂利も段差もあります。しかし、だからこそ、ここでの検証が社会実装への確かな一歩になると信じています。走行に集中していただけるよう、地図・許認可・保管・宿泊まで環境はこちらで整えました。「まず現地を見たい」というご相談だけでも大歓迎です。町と大学と企業が一緒になって、中山間地域の暮らしを支えるモビリティの未来をつくる、この広大なフィールドで、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



長谷井教授（特任）

PRESS RELEASE

■発表内容

【背景】

高齢化が進む中山間地域では、買い物や医療機関へのアクセス確保が喫緊の課題です。自動配送ロボットや自動走行モビリティはその有力な解決策と期待されていますが、これまでの走行実証の多くは、東京・青海地区（お台場）など路面や通信環境が整った都市部で行われてきました。一方で、実際にこれらの技術が必要とされる地域には、坂・砂利・段差・劣化舗装・通信インフラの弱さといった条件が日常的に存在します。

【実証フィールドの内容】

今回開設したフィールドは、全国で初めて「デジタル田園健康特区」に指定された岡山県吉備中央町の吉備高原都市エリア（東西住区・北部住区・センター区・南部住区・吉川地区ほか）です。歩道走行を基本とし、走行負荷の高い悪路区間は車道左寄りへ一時退避して歩道へ復帰する方式で、警察との手続きを岡山大学が代行します。参加企業への主な提供内容は次のとおりです。

1. 3D 点群地図： 青海地区のラストワンマイル配送走行検証で、ロボット用マップを手がけた産業技術総合研究所^{※3} チームが作成
2. GNSS^{※4} 自己位置マップ+機器貸出： 民間企業と連携し、フィールド内の自己位置を表示できる地図と受信機を用意
3. 保管・宿泊拠点： 町中心部「きびプラザ」2F にロボット保管スペースを確保。上階はホテルで、宿泊補助あり（人数・日数上限あり）。
4. 搬入出支援： トラック・クレーンは岡山大学が用意

実施期間は2026年9月1日（火）～11月20日（金）（GNSS 機器の貸出が不要な場合は11月30日（月）まで実施可能）。募集対象は、屋外の歩道を自律走行可能な配送ロボット・小型モビリティを開発する企業・研究機関です。



走行対象範囲



提供される点群データ



舗装の持ち上がり(走行時の障害)



PRESS RELEASE

【今後の展望】

本フィールドは、岡山大学病院のデジタルツインを用いた院内走行研究の発展として位置づけています。今後、吉備高原医療リハビリテーションセンターのデジタルツインを作成し、院外（バス停・駐車場）から院内の受付・検査場所へシームレスに乗り入れる自動走行モビリティの開発を予定しています。

■社会的な意義

高齢化と人口減少が進む中山間地域における買い物・医療アクセスの課題は、吉備中央町だけでなく全国共通のものです。実際に技術が必要とされる地域を丸ごと実証フィールドとして開放し、地図整備・許認可・保管・宿泊まで一体で支援する本取り組みは、企業の参加障壁を下げ、自動配送・自動走行モビリティの社会実装を加速するモデルケースとなることが期待されます。さらに、院内から屋外までを見据えた「人とモノの自動移動」の実現に向けて、自治体・大学・国研・企業が連携する産学官連携の枠組みとしても意義を持ちます。

■研究資金

本研究は、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）の支援を受けて実施しています。

■補足・用語説明

- ※1) デジタル田園健康特区：2022年、吉備中央町が長野県茅野市・石川県加賀市とともに全国で初めて指定された国家戦略特区。デジタル技術と規制改革により医療・生活課題の解決に取り組む。
- ※2) デジタルツイン：実際の建物や空間をコンピュータ上に精密に再現した「双子」のデータ。ロボットの走行経路の設計や検証に活用できる。
- ※3) 産業技術総合研究所（産総研）：日本最大級の公的研究機関の一つ。本実証では、ロボット用3D点群地図の作成を担当。
- ※4) GNSS：衛星測位システム。人工衛星の電波を用いて、ロボットが自分の位置を正確に把握するために利用される。

詳細・エントリー：<https://kibichuo-robot-delivery.vercel.app/>

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座
教授（特任） 長谷井 嬢
（電話番号）086-235-7273



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。